

# オモテとウチ、チとソラが響き合う住み続けたい場所 —尾道「原型居住地」街区の要素変更型再編計画—

1190040 小川 善弘

指導教員 渡辺 菊真

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

## 1 設計の背景と目的

### 1-1 路地のある空間

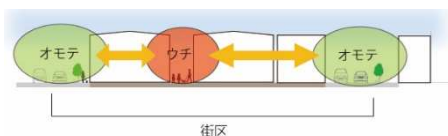
路地は住宅密集地などに形成される狭い道や家と家の間の通路である。路地は生活する人にとってもなじみがあり居心地が良い空間だと考える。道路とは印象も異なり、一步路地に入ると別世界にワープしたかのような人の世界が広がる。また、住人たちのコミュニティを育む場所でもある。



(写真1 路地)

### 1-2 オモテとウチ：街区の空間

路地は街区単位で見ると内側の空間であり、ウチと考える。ウチの空間が存在すると、道路に面した街区の外周はオモテと考えられる。オモテがあることによりウチの空間の良さが生まれる。街区にとってはオモテとウチの関係性が重要である。



(図1 街区のオモテとウチの断面構成)

### 1-3 ウチ、街区全体の問題

ウチは、前近代的な不良住宅地区であることが多く、防災機能が劣る危険な地区となる。また接道条件を満たしていないことが多く、建て替えができないため空き家となる場合が多く存在し、住んでいる人も高齢化のため今後さらに空き家が増加し最終的には無人化し廃墟化してしまう。また街区全体として、オモテに建物が建つことにより、ウチが建て替えできない状況にも繋がり、空き家が増え、街区が空洞化する。すると街区全体としても活気を失い衰退していく。

### 1-4 目的

本設計の目的は街区が持つ魅力は残し空間の継承を行い、問題は解決することである。そのために街区のオモテとウチ両方を考えた街区再編を行う。

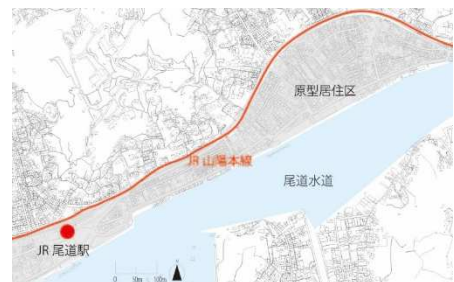
### 1-5 要素変更型の街区再編

街区の問題を空間的に解決するためには、街区全体をゼロから再開発する方法と、部分の変更のみで調整し再編していく方法の2つがある。ゼロから再開発を行う場合、街区の問題は全て解消されるが、街区が持つ空間を継承することは不可能である。一方部分的変更では、現在の街区が持つ空間がベースとなるため、空間を継承することができる。今回の計画では街区全体が持つ空間の魅力を残したいため部分的変更により街区の空間性を保持したまま街区再編を行う。

## 2 対象範囲と概要

### 2-1 尾道と「原型居住地」

対象範囲として広島県尾道市の JR 山陽本線の線路南側を設定した。南側は近世の古い時期に干拓によってできた都市であり、古くから商業地として栄えた。近現代の都市計画で作られた町ではなく、長い歴史の中でゆっくりと形成された町であり、狭隘な道路、密集した木造住宅が数多くある。居住地として北側より古い歴史を持つ南側を、尾道の「原型居住地」と考える。

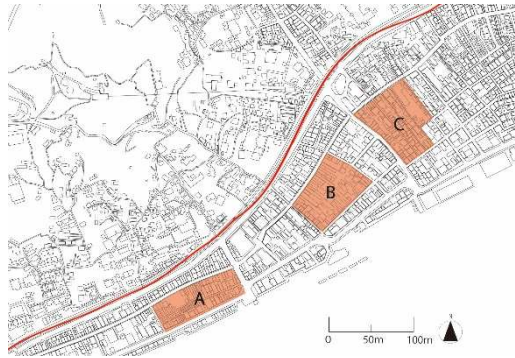


(図2 尾道と対象範囲(原型居住地))

\*1 国土地理院の電子地形図 30000 に地名等を追記して掲載

## 2-2 「原型居住地」の様態

対象とした JR 山陽本線南側の中にも 3つの街区が存在する。

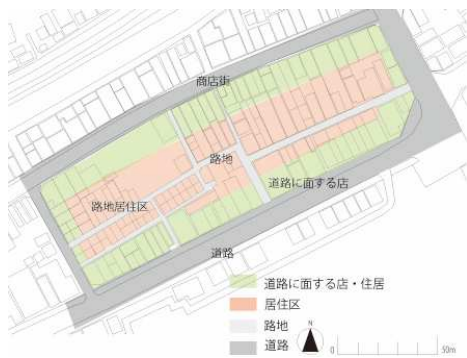


(図 3 「原型居住地の 3つの街区」)

\*1 国土地理院の電子地形図 30000 に要素等を追記して掲載

### 街区 A

街区 A は東西方向に長い街区である。オモテである北側は商店街が接続し、他の三方は道路に接続する。商店街と道路には住宅、店が並ぶ。ウチはオモテの店と住宅に挟まれるように東西に長い形状の路地居住区が存在する。オモテとウチは南北方向の路地によって接続する。



(図 4 街区 A の平面構成)

\*1 国土地理院の電子地形図 30000 に要素等を追記して

### 街区 B

街区 B はオモテ四周を道路によって囲まれている。道路には住宅や店舗がロの字に接続する。ウチの住宅はオモテに囲まれており、密集している。その住宅には細い 2本の路地が接続している。ウチの住宅は現在空き家となっているものが多い。



(図 5 街区 B の平面構成)

\*1 国土地理院の電子地形図 30000 に要素等を追記して掲載

### 街区 C

街区 C は南北方向に路地と道路が延びる街区である。オモテ

は四周を道路によって囲まれている。ウチは南北方向に道路と路地が通っている。しかし、南北どちらかだけ車が通ることができ、道の途中で狭くなり道路から路地へと変化する。歩いていると、道幅が広がったり、狭まったりと見える町並みも変化する特徴がある。



(図 6 街区 C の平面構成)

\*1 国土地理院の電子地形図 30000 に要素等を追記して掲載

今回の計画対象地は街区 A とする。街区 A は街区全体として衰退している商店街や建て替えができないウチの路地空間があるが、3つの街区の中で、人の生活、生業が多く残っており、問題も多いが、魅力も豊かだと感じる。また、JR 尾道駅からも一番近く街区全体が活性化されることで、尾道全体の活性化にも繋がる可能性がある。

### 2-3 街区 A の空間概要

街区 A は JR 尾道駅東側約 500m に位置し、東西に約 140m、南北に 50m に延びる街区内に 155 軒の住宅、店舗が建ち並ぶ。北側オモテの商店街は、現在空き店舗が増え、商店街として活気が感じられない。南側オモテは比較的新しい住居も多く、道路に対し建物がセットバックすること無くひとつづきの立面のように立ち並ぶ。路地には住んでいる人の自転車、洗濯機、プランターなどが路地にはみ出している。街区 A には様々な問題があるが、コミュニティを育むという路地の良さが多く残っているため、要素変更により街区を再編する。



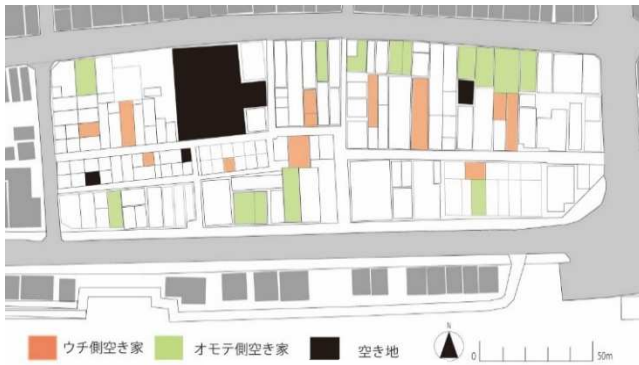
(写真 2 オモテ北側の商店街)



(写真 3 ウチの様子)

### 2-4 街区 A の現状

街区 A の現状として北側オモテの商店街に空き店舗が 9 軒、火災により空き地となっている場所がある。南側オモテには 5 軒の空き家、店舗が存在する。ウチは 12 軒の空き家が存在する。また、現在住宅がなくなり空き地となっている場所が 2カ所存在する。



(図 7 街区Aの現状)

\*1 国土地理院の電子地形図 30000 に要素等を追記して掲載

## 2-5 街区Aの魅力と問題

街区Aの魅力はウチ側にはベランダの張り出しによる明暗があり、また見えるシークエンスも異なることである。

また調査から、街区Aには庭を持っている住宅はなく、ベランダが空の光を取り合うように張り出していて、そこから空と庭への欲求を感じた。庭が持てず、空が狭いのは解決すべき問題だと考える。

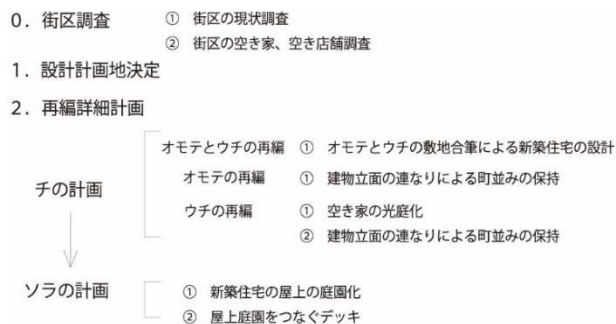
## 3 計画指針

街区Aを対象に要素変更型の再編計画を行う。

街区Aの空間構成を4つに分類する。街区の外周をオモテ、街区の内部をウチとし、この2つは水平方向の要素である。次に地面に接続している部分と建築内部をチ、建物の屋上以上をソラとし、この2つは垂直方向の要素である。チの計画では、ウチに存在する空き家の光庭化、合筆によるオモテ、ウチをつなぐ4つの敷地で新築の計画を行う。ソラの計画では、調査から感じた、空と庭への欲求から新築の住宅の屋上を庭園化し、さらにその4つの新築屋上部を基点にブリッジのネットワークを形成する。

## 4 設計の方法

設計の方法は以下のチャートで示す。

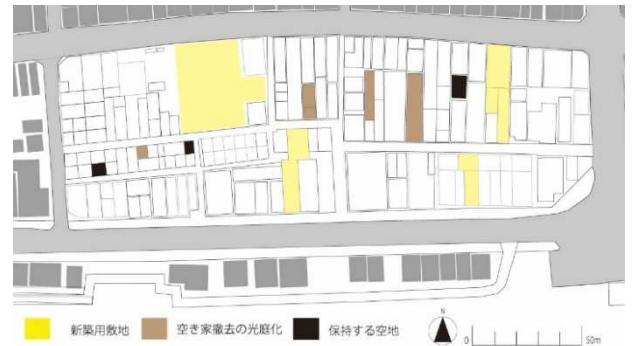


(図 8 計画チャート)

## 5 計画の内容

### 5-1 チの計画

オモテの空き店舗とウチの空き家の敷地を合筆して1敷地にする。このことにより、オモテとウチをつなぎ、かつ新築可能な設計地となる。これを3カ所選定した。また現在火災により空き地となっている場所はオモテとウチが繋がっているためこの敷地でも新築での設計を行う。結果として、4カ所の敷地で新築することとなる。



(図 9 チの計画構成)

\*1 国土地理院の電子地形図 30000 に要素等を追記して掲載

### 5-1-1 ウチ

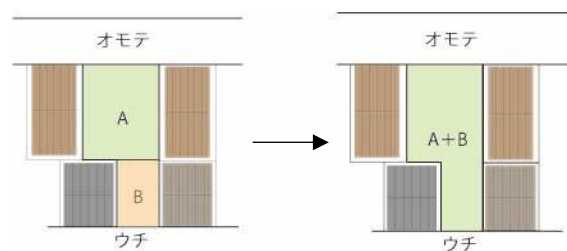
#### 空き家の光庭化

ウチはかなりの高密度で住宅が建っている。そのため路地は非常に暗く、また住宅の2階、3階部分ではベランダが路地に張り出していることも暗い印象を強めてしまう。しかし新たに建て替えはできないため現在空き家となっている敷地の建物を光庭化し路地内に光が入るように計画する。光庭化を行う場所はウチの空き家すべてではなく、現地調査から決定し、住宅がひとつづきの立面形成を失わないように配慮した。また、空き地となる場所の一部はソラの計画の橋脚部に使用する。

### 5-1-2 オモテとウチ

#### 合筆

ウチに接続する住宅は接道条件を満たしていないため、建て替えができない。そのため、オモテに面した南北の敷地も含めて合筆することによりウチに接続する住宅も含めて建て替えを行うことを可能にする。



(図 10 合筆図解)

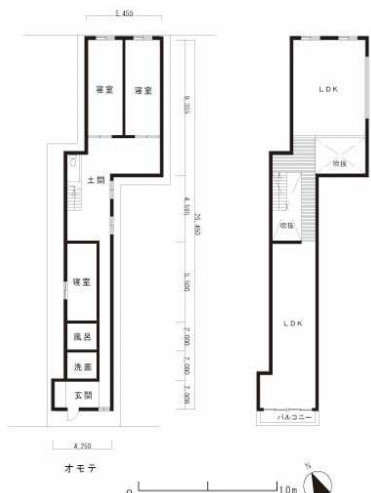
### 新築住宅のプランニングと Passive System 導入

4つの敷地で行う新築住宅は、すべて2階建てRC造とする。基本的なプラン構成として、1階に水回り、寝室を配置し、2階のウチやオモテに接続する場所にLDKを配置し、商店街、路地に人の生活する光が灯るようなプランニングとする。なお北側

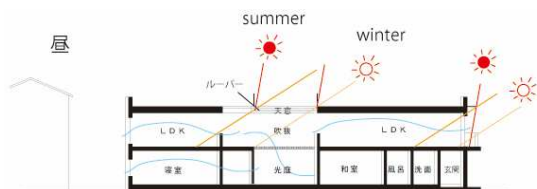


オモテの商店街に接続する敷地は1階をテナントや地域の方が使えるフリースペースとし、2階を住宅とする。

新築住宅には Passive System を導入する。建物が密集し、採光、集熱が難しい街区の中で中庭、高窓を利用する。RC 躯体は外断熱を徹底し、快適な室内環境を持つように配慮した。



(図 11 住宅平面図)



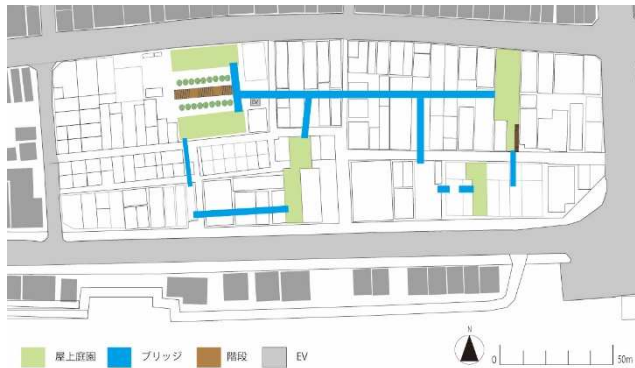
(図 12 断面にみる Passive System Diagram)



(写真 4 商店街に灯る住宅の光)

### 5-2 ソラの計画

ソラの計画では、調査から感じた庭と空のあこがれから新築屋上部を庭園化し、さらにそれをブリッジでつなぐ。



(図 13 ソラの計画構成)

#### 5-2-1 屋上庭園

4つの敷地の新築住宅の屋上を庭園化する。屋上庭園は街区に住む人全員が利用可能とする。現在のチで存在しない畑、休

憩スペースを設け、暗く狭い路地とは対照的な開放感のあるスペースとする。新たな屋上庭園のスペースは街区 A のオモテの人とウチの人をつなぐ新たなコミュニティースペースとなる。

#### 5-2-2 屋上庭園をつなぐブリッジ

4つの屋上庭園は幅 2.5mのブリッジでつながる。ブリッジは住宅屋根の上に掛かり、ソラで新たなネットワークをつくる。普段の街区の中での生活で感じることができない空を感じることができ、チの路地とソラのブリッジが交差し新たな空間となる。また、普段見ることができない尾道の南北の景色を見ることが出来る。



(写真 5 屋上庭園)



(写真 6 ブリッジ)



(写真 7 路地とブリッジの交差)



(写真 8 ブリッジからの尾道)

### 6 街区空間の未来

今回の要素変更型の再編により、建て替えを行うことができなかったウチに住宅を建てることができ、新しい住人を街区に呼び込む計画を行った。また新たなソラの計画により開放的で明るい魅力ある街区となる。今後住宅が増えたことでチのオモテに存在する商店街も活性化される。商店街の活性化により、現在空き家となっているウチにも居住者希望が増加し、ウチの空き家のリノベーション需要は増大しさらに新たな住人が増え街区は大きな活性化が起こるだろう。

### 7 まとめ

尾道の線路南側に存在する「原型居住地」の街区を対象に、街区に存在する魅力を残し、要素変更によりオモテとウチ、チの問題を解決し、新たにソラの計画を加えることで、街区全体に活性化が起きる可能性を提示した。新旧双方の人々が住み続けることができる町の計画ができたと思っている。

### 8 引用、参考文献

- ・路地から見たまちづくりの作法 (1月10日取得) (<http://www.gakugei-pub.jp/judi/semina/s9806/ono001.htm>)
- ・\*1 国土地理院の基盤地図情報ダウンロードサービス利用 (11月20日取得) (<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>)